

女川原子力発電所2号炉 指摘事項に対する回答一覧表
 (4条:原子炉本体の基礎の復元力特性について)

No.	項目	審査 会合日	対応状況	回答
1	RPV (原子炉圧力容器) ペDESTALの下部と原子炉圧力容器底部のコンクリートの一体化について、FEM 解析等により妥当性を提示すること。	H30.6.28	本日回答	3次元 FEM 解析によって、地震荷重が作用した場合の RPV ペDESTAL下部の変形が、RPV ペDESTAL上部の変形と比較して十分小さいことを確認したことから、RPV ペDESTAL下部と原子炉圧力容器底部のコンクリートを一体として扱うことは妥当である (資料 1-2-2)。
2	復元力特性評価式による荷重-変位特性と既往の加力試験結果のせん断変形の比較について、第1折点で差異が生じた理由を提示すること。	H30.6.28	本日回答	試験結果に基づく曲げ変形の荷重-変位特性は、せん断成分も含まれる鉛直変位を曲げ成分のみによるものと仮定していることから、曲げ変形による曲率が小さくなり、見かけ上、曲げ剛性が大きくなることにより、その分だけせん断剛性が低く算出されたものと考えられる。
3	せん断変形のスケルトンカーブの直線近似の影響検討について、振動特性を踏まえ提示すること。	H30.6.28	本日回答	全体変形としては、試験結果に基づく荷重-変位特性と評価式による荷重-変位特性はよく一致していることから、せん断変形に対する評価式による荷重-変位特性(直線近似)の第1折点付近の差異の影響は少ない (資料 1-2-2)。
4	今後の追加検討について、評価方針だけでなく、構造成立性の見通しについても提示すること。	H30.6.28	本日回答	RPV ペDESTALの剛性を低下させた場合の地震応答解析を行い、原子炉格納容器、原子炉圧力容器、原子炉しゃへい壁、RPV ペDESTAL、PCV スタビライザ、RPV スタビライザ及びシヤラグの地震応答の変動が、構造成立性に影響を及ぼすものではないことを確認した (資料 1-2-2)。